

系だといわれて苦節29年、はじめて手にした政権の座であった。

嶺きにいま辿りつき思へるは

遠くはるげく踏み越えしみち

三木政権は保守体制の二つのタブーに挑んだ。政治資金規正法の強化と独占禁止法の改正である。

これまで制限なしだった企業からの政治献金を、資本金の額に応じて限度額を設けたことは三木政権フリーン政治の功績の一つだった。



衆議院予算委員会で答弁

だが独占禁止法の改正は「自由主義経済を否定し、自民党をつぶす気か」と党内、財界から猛反対を受けた。そのうえ、ロッキード事件の発覚から国民世論を

バックに真相究明に熱意を示す三木に対し、党内は田中情論が横行、「三木には惻隱の情がない」と、逆に三木あるしさえはじまった。

母まさば大内山に初春の

けふの節会のよし告げ麻之乎

一九七八（昭和53）年1月12日、新春恒例の宮中行事である歌会始で、歌をよみあげる講師は、この年の召人である井出の歌を朗々と読みあげた。

歌会始は宮中における年始めの歌会で、古くは毎年の定めではなかったが、一八六九（明治2）年からは毎年1月に行われ、天皇、皇后が出席、国民の詠進歌のうち秀逸作が披露される。また特に一人が召人として選ばれ、応制歌を献上することになっている。

政治家が召人として選ばれたのは、一九二二（大正10）年の床次竹二郎以来、57年ぶりのことだった。

### ●選挙民に贈った色紙

それから7年後、衆院議長の交代にあたり、自民党執行部はその第一候補に井出を推した。

これにクレームをつけたのが田中とその周辺だった。政治倫理問題が議題にあつて、ロッキード事件で有罪の判決を受けた田中の議員辞職勧告案などが国会で取り沙汰されようとしているとき、政敵三木の女房役、

井出の議長には賛成できないという。

世論も「さわやかな議長」と好感をもって迎えられたが、実現出来なかった。

その後の井出は白内障、緑内障とたび重なる目のわずらいに悩まされ、政界引退を決意する。

一九八六（昭和61）年2月11日、彼の引退を惜しむ選挙民三千八百人が小諸市民会館をつめた。

その一人ひとりに、井出が政治生活のしるしと贈ったのは、60年間親しんできた三十一文字の色紙だった。

四十年の歩みは短かからなく

酬いることの未だ足りざる

（中村勝実）



色紙をしたためる井出

### 参考文献

- 寺山義雄 『戦後歴代農相論』 富民協会
- 中村勝実 『佐久の代議士』 櫛
- 中村勝実 『信州の大臣たち』 櫛

## 佐久の先人たち<sup>18</sup>

### 清廉一筋の歌人政治家

い で い ち た ろ う  
**井出一太郎**

(1912~1996年)



三木内閣の官房長官だった井出一太郎は、閣議の席で岩波文庫の「日暮砵」を配った。これは信州松代藩の家老恩田木工が財政窮乏のなか、その改革に当たったときの記録。国政に当たる者もこれを経綸の書として必読をすすめた。歌もよむ文人政治家らしい政治姿勢だ。

広の学生。大学の門衛も教授と思ひ敬礼したという。

みすず刈る科野の真三折りすてて

この日たたずばいつの日あらむ

井出が政界出馬を決意したのは、終戦の玉音放送だった。戦後第1回の総選挙に出馬して当選。以来40年清廉一筋で16回の連続当選を果たした。その間、片時も歌を離さず、一貫して貫き通した政治姿勢は「保守のなかの革新」であった。

井出の初入閣は石橋湛山内閣の農林大臣だった。このとき先輩の松村謙三は前任農相の河野一郎と比較し、「河野は資本家の農政だが、井出は農民の農政だ」

(『戦後歴代農相論』より)と井出に期待を寄せた。

それより以前、記録的冷害の年に衆議院農林委員長として、「救農国会」で大活躍の井出を評価しての発言だ。当時の自民党は俗に「八個師団」ともいわれ八つの派閥があった。井出は政策集団の三木・松村派に属し、国内では農業基本法の立案、国際的には中国との国交回復に取り組んだ。

中国問題では党内が二分され、タカ派はアジア問題研究会(AA研)、ハト派はアジア・アフリカ研究会(AA研)にまとまった。AA研は松村謙三を中心に藤山愛一郎、井出一太郎、古井喜実、川崎秀二らがり

ーダーだった。

こうした松村・井出らの動きにこたえ、政界も順次「中国への門を開け」の聲が高まった。それがニクソン米大統領の中国電撃訪問で、我が国も一挙に国交正常化へと進んだ。

これを機に全国組織の日中友好協会が設立され、現在この副会長が井出の長男正一(元厚相)。親子二代にわたって日中友好に「大きな橋」をかけた。



内閣のスポークスマンとして記者会見

### ●大内山の初春を飾る歌

一九七四(昭和49)年、金脈問題に対する世論の批判で田中角栄内閣が総辞職、自民党副総裁椎名悦三郎の裁定で、後継は三木武夫内閣となった。この官房長官に選ばれたのが井出である。党内では反主流派、傍

### ●玉音放送で政界決意

井出は田田町(現佐久市田田)の生まれ。家は三百年前から続く酒造業で、井出は十人兄弟の長男だった。一九三二(昭和6)年、旧制松本高校(現信州大学)を卒業したが、農村恐慌で家業の酒も不景気で売れない。そこで大学進学をあきらめ、家業の酒づくりに没頭する。

それから10年後、学問への郷愁絶ち難く、京都大学で学びながら毎週、京都と田田を往復する。金帰月来で家業も続けた。彼は学生服のなかで、ただ一人の背